

## 論文執筆における引用の仕方、図表の転載、及び引用・参考文献の記載形式

### 1. 本文における引用の仕方

- (1) 文献を引用する場合は、引用部分を括弧「」で囲み、著者の姓、発行年、引用ページを明記する（ただし、インターネット上のデジタルデータ等、ページ番号がない場合、ページ番号の記載は必要ない）。例：「…である」（佐藤，2010，p.28）。佐藤（2010）は「…」（p.28）と述べている。
- (2) 参考文献として参照する場合は、著者の姓、発行年を明記する。例：鈴木（2015）は…と述べている。…と考えられる（鈴木，2015）。
- (3) 同一著者の複数文献を一括して参照する場合は、発表年をコンマで区切って記す。同一発表年の文献は、発表年の後に a, b, …とアルファベットを付けて区別する。例：高橋（2019，2020），高橋（2018a），高橋（2018b）
- (4) 括弧書きで複数の文献をまとめて参照する場合は、同一著者ごとにまとめて、間をセミコロンで区切る。順番は、日本語・外国語文献を区別せず、著者の姓の英文表記に基づいてアルファベット順とする。例：（伊藤，2017；田中，2003）
- (5) 著者が2名の場合、和文の場合は中黒「・」，欧文の場合は「&」を用いて著者名を記す。著者が3名以上の場合は、第1著者名のみを記し、第2著者以降は、和文の場合は「他」，欧文の場合は「et al.」を用いて省略する。例：渡辺・山本（2004），（中村他，2008），Smith & Jones（2009），（Williams et al., 1993）
- (6) 自身の研究を参照する場合は、文献の著者が自身であるような記述はせずに、客観化して言及する。この場合、査読の関係で著者名なしのファイルを作成する際は、自身の文献は削除しない。よい例：加藤（2014）はこれまで…を行ってきた。よくない例：筆者はこれまで…を行ってきた（加藤，2014）。
- (7) 復刻版等を参照する場合は、発行年は原著と復刻版の両方を記し、間をスラッシュで区切る。例：（小林，1980/2013）
- (8) 翻訳書を参照する場合は、著者名を片仮名で記す。発行年は原著と翻訳書の両方を記し、間をスラッシュで区切る。例：テイラー（1952/1957）

### 2. 図表の転載

- ・ 論文に第三者の著作物から図表を転載する場合（教科書など著作物の一部を図として転載する場合も含む）、出典の明記だけでなく、著作権者の許諾も必要な場合があるので注意する。許諾の必要性や、論文における許諾取得の明記の必要性およびその記載の仕方は、著作物によって異なるので、著者が投稿前に確認し、必要に応じて手続きを行う。図を描き直して掲載する場合も、その変更の程度によるので、各自で留意する。
- ・ 学会誌編集部等は、論文が投稿された時点で、必要な確認や手続きは著者が行ったものとして判断する。万一、論文が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ、第三者に損

害を与えた場合、著者がその責を負う（日本数学教育学会著作権規程第5条）。

- ・ 日本数学教育学会が著作権を有する著作物の図表を、当学会が著作権を有する別の著作物で転載しようとする場合は、許諾取得の必要はなく、出典の明記だけでよい。

### 3. 引用・参考文献の記載形式

引用・参考文献は、文献番号は付けずに論文の末尾にまとめ、以下の形式で示す。以下の形式に当てはまらないものについては、文献を特定するのに十分な情報を含めた上で、以下の形式を参考にして記載する。文献名が複数行にわたる場合は、2行目以降を字下げする（全角2文字分）。

DOI（デジタルオブジェクト識別子、Digital Object Identifier）がある文献については、DOIを記載する。本学会の学会誌論文など、日本語文献のDOIについては、J-STAGEのウェブサイト（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>）で論文を検索することによって確認することができる。DOIは、以下の例示にある通り、文献情報の最後に<https://doi.org/xxx>と表記する。引用・参考文献の記載順序は、日本語・外国語文献を区別せず、著者の姓の英文表記に基づいてアルファベット順とする。同一著者の文献は、発表年の昇順とする。同一著者による発表年が同じ文献が複数ある場合は、2019a, 2019b, …のように西暦の後にアルファベットを付ける。

#### (1) 日本語文献の場合

##### ① 書籍（全体）

著者名（出版年）. 書名. 出版社. （復刻版や翻訳書の場合は原著の出版年）

例：中原忠男（1995）. 算数・数学教育における構成的アプローチの研究. 聖文社.

中島健三（2015）. 算数・数学教育と数学的な考え方：その進展のための考察（復刻版）. 東洋館出版社. （原著出版 1982年）

スケンプ, R. R.（1992）. 新しい学習理論にもとづく算数教育：小学校の数学（平林一榮監訳）. 東洋館出版社. （原著出版 1989年）

##### ② 書籍（分担執筆）

著者名（出版年）. 章等の標題. 編集者名, 書名（pp. 開始ページ-最終ページ）. 出版社.

例：重松敬一・勝美芳雄（2010）. メタ認知. 日本数学教育学会編, 数学教育学研究ハンドブック（pp. 310-317）. 東洋館出版社.

##### ③ 学会誌や雑誌

著者名（出版年）. 論文名. 学会誌名, 巻（号）, 開始ページ-最終ページ.

例：三輪辰郎（1983）. 数学教育におけるモデル化についての一考察. 筑波数学教育研究, 2, 117-125.

長崎栄三・瀬沼花子（2005）. OECD 生徒の学習到達度調査 2003年調査の国際結果：15歳児の数学的リテラシー. 日本数学教育学会誌数学教育, 87(1), 17-26. [https://doi.org/10.32296/jjsme.87.1\\_17](https://doi.org/10.32296/jjsme.87.1_17)

##### ④ 学会論文集

著者名（出版年）. 論文名. 学会論文集名, 開始ページ-最終ページ.

例：杉山吉茂・澤田利夫・吉川行雄・渡辺公夫・藤井斉亮・中村享史・清水養  
(2003). 望ましい算数・数学教育のカリキュラム. 日本数学教育学会第 36  
回数学教育論文発表会論文集, 19–24.

⑤ インターネット上の文献

著者名 (出版年). 文献名. URL (参照日) ※参照日の記載は必須とする.

例：中央教育審議会 (2021). 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して：全ての子  
供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現 (答  
申). [https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt\\_syoto02-000012321\\_2-4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf)  
(2021.8.12 参照)

(2) 英文 (欧文) 文献の場合

APA スタイルに従って記載する. 以下に代表的な記載例を示す (姓名の表記, 各単語の大  
文字・小文字, コンマ・ピリオド, イタリックの箇所など, 細部をよく確認すること). そ  
れ以外のものについては各自で APA スタイルを確認して記載する.

① 書籍 (全体)

著者名 (出版年). 書名. 出版社.

例：Niss, M., & Blum, W. (2020). *The learning and teaching of mathematical modelling*.  
Routledge. <https://doi.org/10.4324/9781315189314>

② 書籍 (分担執筆)

著者名 (出版年). 章等の標題. 編集者名, 書名 (pp. 開始ページ–最終ページ). 出版社.

例：Bass, H., & Ball, D. L. (2014). Mathematics and education: Collaboration in practice. In  
M. N. Fried & T. Dreyfus (Eds.), *Mathematics & mathematics education: Searching  
for common ground* (pp. 299–312). Springer. [https://doi.org/10.1007/978-94-007-7473-5\\_17](https://doi.org/10.1007/978-94-007-7473-5_17)

③ 学術誌や雑誌

著者名 (出版年). 論文名. 学術誌名, 巻 (号), 開始ページ–最終ページ.

例：Stein, M. K., Engle, R. A., Smith, M. S., & Hughes, E. K. (2008). Orchestrating  
productive mathematical discussions: Five practices for helping teachers move  
beyond show and tell. *Mathematical Thinking and Learning*, 10(4), 313–340.  
<https://doi.org/10.1080/10986060802229675>

④ 学会論文集

著者名 (出版年). 論文名. 編集者名, 学会論文集名 (pp. 開始ページ–最終ページ). 出  
版社または出版団体.

例：Liljedahl, P. (2019). Institutional norms: The assumed, the actual, and the possible. In M.  
Graven, H. Venkat, A. Essien, & P. Vale (Eds.), *Proceedings of the 43rd Conference  
of the International Group for the Psychology of Mathematics Education* (Vol. 1, pp.  
1–16). PME.

⑤ インターネット上の文献

著者名 (出版年). 文献名. URL と参照日 ※APA スタイルと異なり参照日の記載は必須とする.

例 : Horsten, L. (2019). Philosophy of mathematics. In E. N. Zalta (Ed.), *Stanford encyclopedia of philosophy* (Spring 2019 ed.). Stanford University. Retrieved August 12, 2021, from <https://plato.stanford.edu/archives/spr2019/entries/philosophy-mathematics>